

二〇二二年度 グローバル入試・外国学生入試 試験問題

問題 文部科学省(以下、文科省)は、中学生がスマートフォンや携帯電話を学校に持ち込むことを容認する素案を二〇二〇年七月にまとめた。以下の表および和田秀樹氏(国際医療福祉大学教授)の意見を読んで、問いに答えなさい。

中学校へのスマホなどの持ち込みは、慎重であるべきだ。文科省が持ち込みを容認するといっても、最終的には教育委員会や各学校の判断になる。子供にスマホを持ち歩かせ、大きな自然災害が起きた時に連絡を取りたいという保護者の気持ちは否定しない。確かに安心感はあるだろう。しかし、スマホを携行する時間が長くなることによって生じる弊害にも目を向けなければならぬ。

一つは、利用時間が長くなり、スマホを手放せなくなる依存症の危険だ。オンラインゲームやSNS、動画視聴などによるネットの使い過ぎは勉強や睡眠の時間の減少につながり、子供の脳の発育によくない。文科省が今回まとめた素案は、校内での使用を制限しているが、登下校中の制限には触れていない。登校中や帰宅途中に、人気のゲームやSNSに夢中になる中学生も出てくるだろう。それを見た他の生徒がスマホをほしがったり、まねをしたりすることも考えられる。

厚生労働省研究班の2017年度調査では、ネット依存が疑われる中高生は全国で約93万人に上ると推計されている。5年前に比べて約40万人も増えた。そうした増加傾向に拍車をかけることにならないか、心配だ。「出会い系」などのサイトに触れる機会も増える。友達に合わせて頻繁に連絡を取り合わなければならぬストレスや、ネット上のいじめが増えてしまわないかという懸念もある。災害など緊急時の連絡手段を確保するという意味では、機能を絞った携帯電話で十分だと思う。電話に加え、メッセージを送信する機能があればいい。そうすればゲームに没頭したり、SNSでのトラブルに巻き込まれたりすることを避けられる。

スマホの持ち込みを容認した場合は、校内での管理も問題になる。万一、高価なスマホの紛失や破損といったことになれば、学校側の責任が問われかねない。ただでさえ多忙な教員の負担がさらに増えてしまう。子供たちもスマホを学校に預ける際、自分の個人情報や誰かに見られてしまわないかとストレスを感じるかもしれない。文科省は持ち込みの条件に、スマホ利用の危険性や使い方を学校や家庭で適切に指導することを挙げている。しかし、教員や学校、教育委員会によって力の入れ具合には差が出てしまう。教員にもスマホを手放せない人がいる。そうした点からも持ち込みを容認できる状況ではないと考えている。

(「論点スペシャル」：中学校にスマホ 現場の課題『読売新聞』二〇二〇年七月九日付朝刊 一部抜粋)

設問 1

右の文章の要旨を一五〇字以上、二〇〇字以内でまとめなさい。

設問 2

あなたは中学生のスマートフォンや携帯電話の学校への持ち込みについて、どう思いますか。三五〇字以上、四〇〇字以内で自分の考えを述べなさい。

表. スマートフォン・携帯電話の学校持ち込みルール

	現状	文部科学省の素案
小学校	原則禁止	原則禁止
中学校	原則禁止	一定条件※のもとで容認

※①校内での管理方法やトラブル時の責任の所在を明確化②フィルタリングを設定③正しい使い方や危険性を学校や家庭で指導

表 拡大版

◇スマートフォン・携帯電話の学校持ち込みルール

	現状		文部科学省の素案
小学校	原則禁止	▷	原則禁止
中学校	原則禁止		一定条件※のもとで容認
<p>※①校内での管理方法やトラブル時の責任の所在を明確化②フィルタリングを設定③正しい使い方や危険性を学校や家庭で指導</p>			

二〇二二年度 グローバル入学試験 解答用紙

氏名	フリガナ	受験番号

採点欄 設問 1
採点欄 設問 2

設問 1

(たて書・200字)

200 100 25

設問 2

(たて書・400字)

400 300 200 100 25

(注) 表面のみを使用すること。